

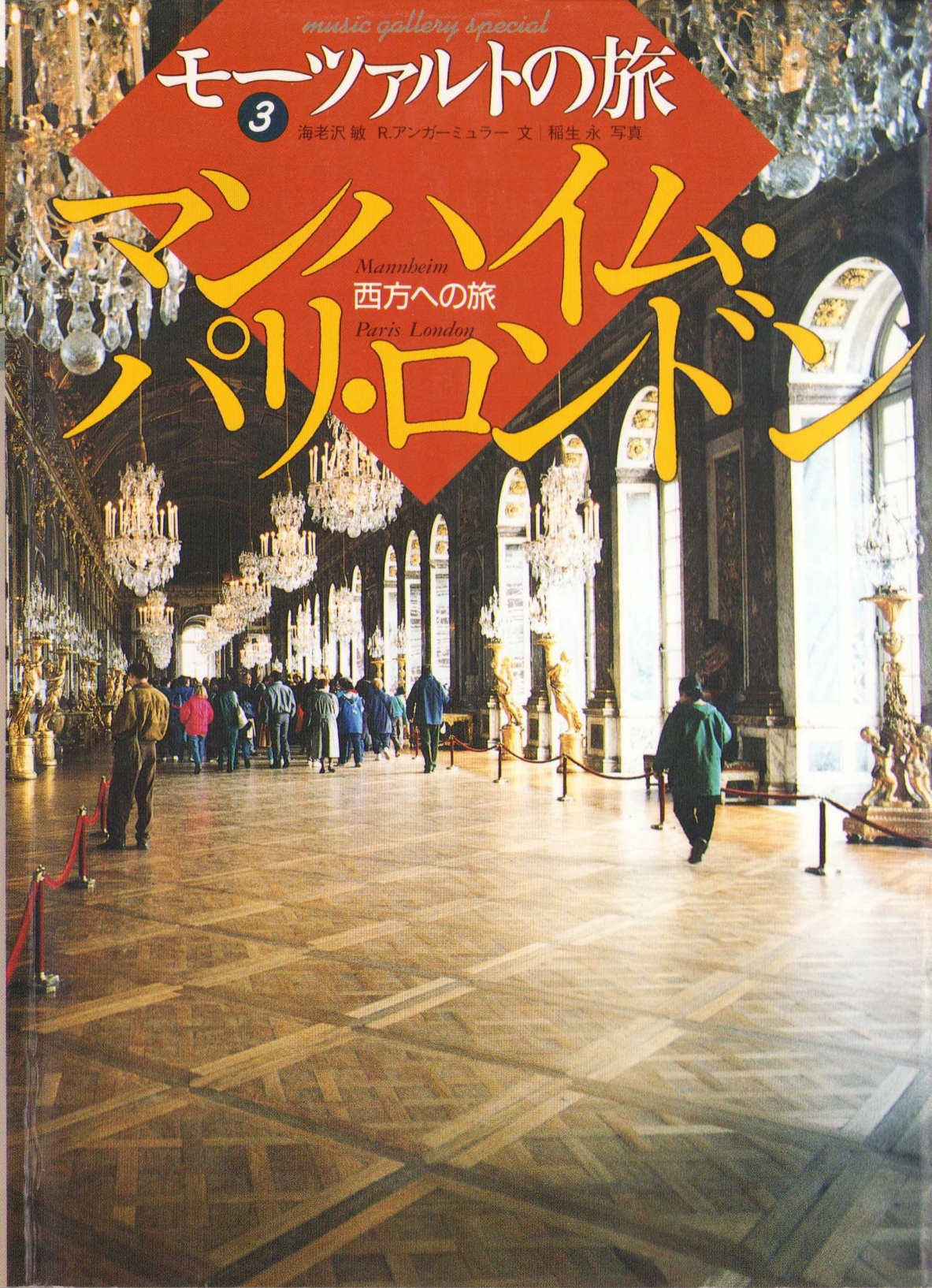


カバーの表▶ヴェルサイユ宮の鏡の間

カバーの裏▶セーヌ河に浮かぶシテ島。右奥がノートルダム大聖堂の2本の塔、サント=シャペルの尖塔、商事裁判所の丸尾根、裁判所とコンシエルジュリー。手前の橋は芸術橋、その奥の石の橋はポン・ヌフ（新橋）で、現存するパリ最古の橋

カバーの折返し▶ロンドンのチェルシー地区エバリー通り180番地に現存する、モーツァルトが第1交響曲を作曲した家

扉▶黄金拍車勲章をつけたモーツァルト(油彩画、1777年)



music gallery special
モーツァルトの旅
3

海老沢 敏 R.アンガー-ミュラー 文 | 稲生 永 写真

マンハイム・
パリ・ロンドン

Mannheim
西方への旅
Paris London

モーツァルトの旅 3

マンハイム・パリ・ロンドン

Mozart

西方への旅

稲生 永 ◆ 写真
海老沢 敏 ◆ 文

音楽之友社



ISBN4-276-38403-6 C0073 P2200E 定価2200円（本体2136円）

music gallery special

モーツァルトの旅

3

海老沢 敏 文 | 稲生 永 写真

マンハイム パリ・ロンドン

西方への旅



音楽之友社



十八世紀のヨーロッパで、とりわけ大きな都会は、ドーヴアー海峡を隔てて、およそ南北に対峙するフランスと英国の首都パリとロンドンであった。モーツァルトの時代、前者はおよそ七十万、後者は約百万を越える人口を擁していたという。神童を神からの得がたい贈物として与えられた父親のレーオポルトが、この奇蹟を、音楽的にもとりわけ重要であったこれらの都会で江湖に知らしめようと思いついたのは、むしろ当然のことであつたろう。両都市在住の音楽家たちから得られる刺激、影響の重大さにも、レーオポルトは思いを至したことであらう。

往路のドイツ諸都市、復路のオランダ、フランス、スイスの諸都市もまた、レーオポルトがおのれのためにも、また息子のためにも一度は訪ねるべき場所と考えたものであつたろう。そして大都会も、また諸国の小都市もそれに値したのであつた。

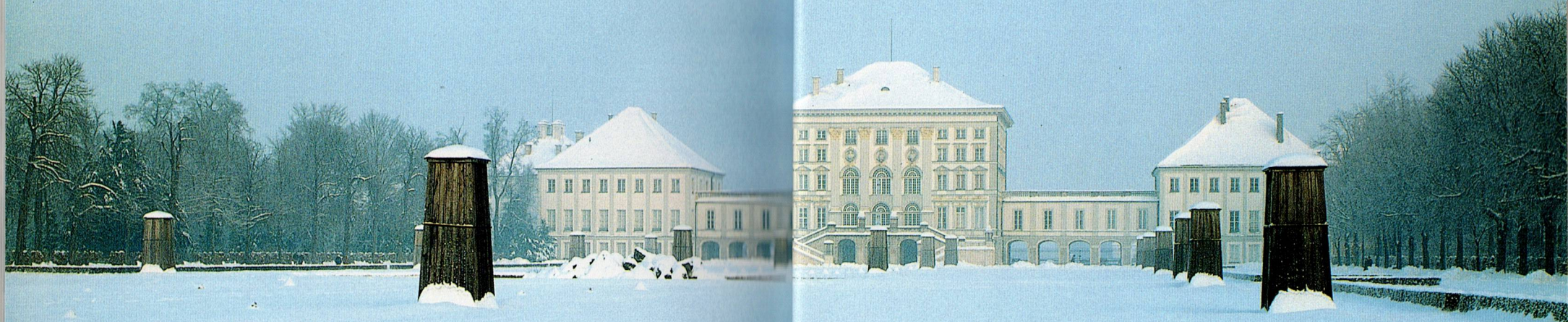
そうした都市のいくつかは、とりわけ、ミュンヘンやアウクスブルク、マンハイム、そしてパリは、青年モーツァルトが、青春の想いを若き乙女たちのぐるりにめぐらすのにふさわしい場であつたし、加えて、すでに音楽家として、可ならざるはない前人未踏の境地に到達しつつあつたモーツァルトが、さらにヴィーンでの飛躍を確実に果すべく、まさに神意に促されて訪うた土地でもあつたのである。

西方への旅路のモーツァルト



目次

西方への旅路のモーツァルト——	3
第一章	
ロンドンの神童——	6
第二章	
ミュンヘンの宮廷にて——	49
第三章	
アウクスブルクの町並——	65
第四章	
マンハイムのよろこび——	81
第五章	
パリ悲傷——	97
モーツァルト年譜——	123



海老沢 敏 (えびさわ びん)

1931年生れ。東大文学部卒。現在国立音楽大学学術部長。ザルツブルク国際モーツアルテウム財団中央モーツアルト研究所員。モーツアルト、ルソウの研究で知られる。主な著書に『モーツアルトの生涯』、『モーツアルトを聴く』、『モーツアルト像の軌跡』、『モーツアルトは宇宙』、『ルソウと音楽』他多数。

稲生 永 (いのう ひさし)

1932年生れ。東大仏文卒。現在立教大学教授。19・20世紀フランス文学専攻。主な著者に『魔法の地理学——フランス文学紀行』、『写真集・フランスの歴史と文学』、共編著に『事典・現代のフランス』、共編訳書に『ネルヴァル全集』、『ランボー全集』。

地図製作：稲生 永

写真資料協力：英国政府観光庁

福井鉄也 (p. 100下3点)

music gallery special

モーツアルトの旅 ③

マンハイム・パリ・ロンドン
—西方への旅—

一九九二年四月五日 第一刷発行 ©

●著者—海老沢 敏

●写真—稲生 永

●発行者—浅香 淳

●発行所—株式会社 音楽之友社

〒162東京都新宿区神楽坂六―三〇

電話 (三三三) 二二一 (代)

受注専用 (三三三) 四二九一

振替 東京七―一九六二五〇

●印刷・製本—共同印刷

●写真—木香舎

●装幀—菊地信義

●レイアウト—押山マサル

ISBN 4 - 276 - 38403 - 6 C 0073

この著作物の全部または一部を権利者に無断で複製 (コピー) することは、著作権の侵害にあたり、著作権法により罰せられます。

Printed in Japan